

ヒバリシギ（シギ科） 全長14.5センチ

雄物川の河川敷にある畑の中を、チョコチョコと歩き回る1羽の小鳥が見つかった。

数歩進んではクチバシを土に刺し込む動作を何度も繰り返している。背中には褐色のまだら模様で、クチバシは黒い。足指は長く、柔らかい泥地での行動に適しているようだ。



素早い動きで餌を探す。

シギ、チドリ類は種類も多く、似たような模様から判断に迷うことがしばしばである。始めて見た鳥であったので、自宅に帰りガイドブックと見比べると「ヒバリシギ」と分かった。シベリア北東部の亜寒帯で繁殖し、日本には旅鳥として春秋に飛来するが、個体数は少ないと記される。



背中の白いV字模様が特徴。



羽の裏側はこんな模様。

今日の雄物川は水かさが多く、中州は全て水没していた。そのため、本来は水辺を好んで生息するヒバリシギであるが、近くの畑地で採餌していたのでしょう。



足指は長い。



あまりに素早い動きと、小さな餌の種類までは分からなかった。

同じ畑では、コチドリの親子4～5羽が餌を探していた。ヒバリシギとほぼ同じ大きさであることから、同定する一つの根拠となりました。

他に仲間は見当たらないので、たった1羽で迷ってきたのでしょうか。この後、無事に仲間と合流してほしいものです。